

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

札幌市立発寒東小学校（北海道）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】 見通しをもった活動から気づきを生んだ実践

<考察>

児童の画面にはトライアングルのイラストが表示されていて、そこに自分の思いを書き込んでいく。一人一人の児童が考えをもって活動に入ることが必要なので、書き込みを開始してから、入力が進んでいない児童に着目した。教員の端末では全児童の画面を同時に表示できるので、児童の困りの把握が短時間で可能である。困りを抱えていた児童のところへ行き、トライアングルの間が空いている部分を指さしながら「ここは鳴るかな？」と発問した。すると児童は「この端はならないんじゃないかな？」と自分なりの考えをもつことができた。この児童は予想を書く段階では苦労していたが、活動の中で着目する点を見付けることができ、それを足掛かりに色々な発見をすることができた。そして結果や考察ではたくさんの発見を書くことができた。

困っている児童の見取りから、教師の関りを通して、たくさんの気づきを生むことができた。

3年生の理科では、音の性質についての学習がある。物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていることや、音の大きさが変わるとき、物の震え方が変わることなどを学ぶ。

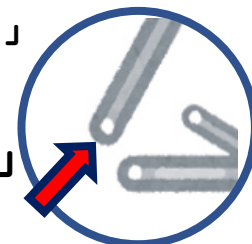
単元の最初では、トライアングルの音を鳴らして見る活動を行うが、音を鳴らすことに夢中になるのではなく、音が鳴っている物に注目することが必要となってくる。そこで、児童が音を鳴らして見る前に、学習支援ソフトで音を鳴らしたときの物の様子について予想を立ててみた。

よそう



「音になるのはどこだと思う？」
「ここは鳴るかな？」

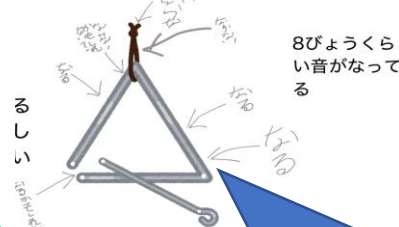
「この端は鳴らないよ！」
「小さくなるかも。」
「ひものところも鳴らないかも。」
「きっと真ん中が一番いい音だよ。」
「鳴る時間に違いがあるかも。」



よそう

なる

ならない



8びょうくら
い音になって
る

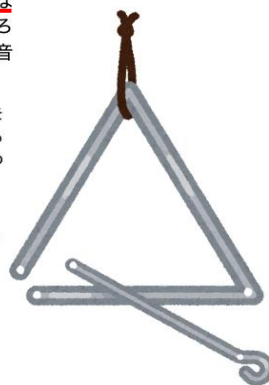
結果と考察のページでは

たたく強さに つくえなどにお
よって音の高 くくと音がなら
さがかわる い、飲のところ
をさわっても音
がならない。

飲の部分が音が トライアングルを
鳴り、紐と間の たいたいたら手にも
ところは音はな しんどろがつたわ
てくる。

らない 内側と外側で音が違う。

つくえなどにおいてならすチ
ンと小さな音で鳴っている。



児童同士がお互いの画面を見合うこともでき、意見を比べ新たな気づきも生まれやすい。

見通しをもった活動から、たくさんの気づきが生まれた